

ごあいさつ

本日はご多忙中、東京モーツァルト連第19回演奏会にお運びいただきありがとうございます。

モーツァルト連はミサ全曲をジャーマン・ラテンで歌うことを目的として旅立ちました。今回の演奏会は最後のミサの発表の場、念願が叶い、感無量です。途中、東京モーツァルト連と改称したり、「メサイヤ」のモーツァルト版に出逢ったり、「バスティアンとバスティエンヌ」「魔笛」三部作（大地編、太陽編、夜月編）「モーツァルトの百面相」、と色々道草をしながら、気がついたら11年経っていました。

今思うとあっという間でしたが、モーツァルトが以前より増して好きになったこと、友達に出会えたこと、その他かけがえのない経験ができ自分を成長させられたと思っています。その間、モ連メンバーやお手伝い下さった方々には色々な面で助けて頂きました。暖かく長い目で付き合ってくれた佐藤宏充マエストロ、台本・演出の森山太さん、裏を漏れなく支えてくれた伊奈山明子さん、その他多くの出会った方々、もちろんメンバーを応援して下さったお客様があってモ連が続けられたと思うと感謝の言葉も浮かびません。

さて、メンバーの皆さん、それぞれ音楽家・母・職業人・社会人として忙しい歳にさしかかりましたね。人生の最高に充実した時代を精一杯生き、色々な面でご活躍下さい。私はそれを影から見守っていたと思います。

モ連の今後ですが、充電期間を暫時いただき、新たな旅立ちに備えようと考えています。その節はまた応援をいただけたら幸いです。

最後になりましたが、皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。本日はありがとうございます。

尚、ミッション成功のお祝いとして3月16日に、本郷三丁目「BON ART」で、「第20回演奏会」と称して打ち上げを予定しています。

東京モーツァルト連代表 辻端 幹彦

東京モーツァルト連 第19回演奏会に寄せて

本日はお忙しい中、東京モーツァルト連の演奏会にご来場頂き誠に有難うございます。

東京モーツァルト連は本日のハ短調ミサの演奏をもちまして、モーツァルトの作曲したミサ曲18曲を全て演奏したことになります。これは偏に主宰の辻瑞さん、事務局の大森さんはじめ東京モーツァルト連のメンバー皆さんの、モーツァルトの音楽に対する愛情と情熱の賜物であると感慨もひとしおです。東京モーツァルト連は決して大きな団体ではありませんが、それでも11年という歳月、全曲演奏を見据えながらモチベーションを持続させていくというのは並大抵のことではありません。

私はほとんどの演奏会に指揮者として参加させて頂きました。2002年3月に第1回の演奏会を催した時は、まだ指揮科の学生でした。モーツァルトの作品は、オペラ、シンフォニーをはじめとして最も愛する音楽でしたが、モーツァルトの21歳以前の作品にはなかなか出会う機会がありませんでした。これら珠玉のミサ曲の数々に触れ、天才モーツァルトの創作の軌跡を皆さんと分かち合えたことは、指揮者としてなかなか経験できない幸せな体験であったと実感しています。

「継続は力なり」とよく申しますが、11年間の継続の成果を本日の、名曲「ハ短調ミサ」の演奏に込めたいと思います。

最後になりましたが、これまで東京モーツァルト連の活動を応援して下さった皆様、演奏会に足を運んで下さった皆様に、心から感謝を申し上げます。天才モーツァルトの音楽を最後までごゆっくりお楽しみください。

指揮者 佐藤 宏充

東京モーツァルト連 The 19th Concert

2013年1月27日〔日〕17:30開演
ルーテル市ヶ谷ホール